

第2章

「学園都市八王子」を 取り巻く状況



1 国の動向

(1) 大学等の在り方

デジタル化や脱炭素化といったメガトレンドは、必要とされる能力やスキルを変え、職種や産業の労働需要を大きく増減させる可能性があります。（経済産業省「未来人材ビジョン」より）

こうした中、未来を支える人材を育成・確保するためには、教育を含む社会システム全体の見直しが必要となります。大学等の高等教育機関には人材育成の中核を担うことが期待され、成長分野への学部再編など、その機能強化の必要性が指摘されています。

またこの他に、国としても奨学金支援制度の充実などによる、誰もがその意欲に応じて学ぶことのできる環境整備や人生100年時代に向けた学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備を進めるとしています。

コラム

未来を支える人材像

国では「好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる人材」を未来を支える人材像として挙げています。

出典：教育未来創造会議※「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」

※ 教育未来創造会議

国の未来を担う人材を育成するためには、高等教育をはじめとする教育の在り方について、国としての方向性を明確にするとともに、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進する必要があるとして令和3年（2021年）12月から開催されています。

(2) 地域と大学等の連携

人口減少をはじめとした、社会の劇的な変化を踏まえ、近年、地域における大学等の役割に対して、今まで以上に注目が集まっています。

大学等には地域の人材育成や課題解決に向けて、地域ならではの学びやイノベーションの創出が求められ、それらは、各大学等の「特色」や「強み」ともなります。また、大学等が地域の中核的な拠点となるにあたっては、地域のために大学等が貢献するとともに、地域が大学等と一緒に取組を進めていく、そのような大学等と地域の関係の構築が重要です。

そこで国では、地域の核として、地域の産業界等と連携して地域課題の解決や地域が求める人材の養成に貢献する大学等の支援や産学官連携によるイノベーションプラットフォーム整備を推進するほか、地域連携プラットフォームの構築に関するガイドラインの策定や大学等連携推進法人の制度化により、大学等と地域の産業界や地方公共団体との連携や、地域の大学間での連携を推進しています。

コラム

地域における大学等の役割

地域において大学等が果たす重要な役割は下記1～4のように、様々に存在します。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 人材育成機関としての役割 | 3 地域の文化・歴史を発展・継承する役割 |
| 2 高度な研究能力を有する機関としての役割 | 4 知と人材のハブとしての役割 |

【大学等にとっての地域の魅力】

- (1) 学修のフィールド
- (2) 様々な経験の場
- (3) イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫
- (4) DX・グローバル化の最前線

【大学等が地域で求められる取組】

- (1) 産学官連携
- (2) 人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組

出典：中央教育審議会大学分科会「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」

2

前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」の成果

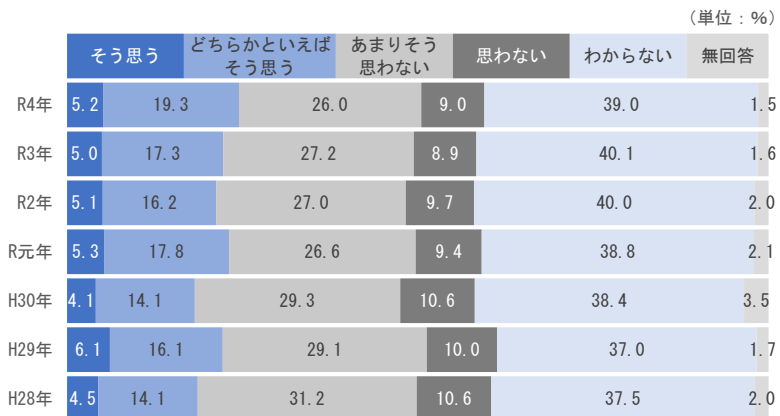
前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」（計画期間：平成29年度（2017年度）～令和5年度（2023年度））では、「【基本理念】大学等と地域がともに発展するまちづくり」のもと、地域で学生が「学び」「育つ」、さらには学生が八王子の魅力を発見し、「働く」または「暮らす」場となることを目指し、7つの基本方針と全体の共通方針を定めました。

7年間の取組を振り返り、その成果を第2期として策定する本ビジョンに反映しています。

【アウトカム指標】

大学等や学生がまちづくりに関わっていると
実感している市民の割合

目標値を概ね達成しました。このことから、連携協力事業実施の
積み重ねによる成果が市民の実感として顕れたと考えられます。

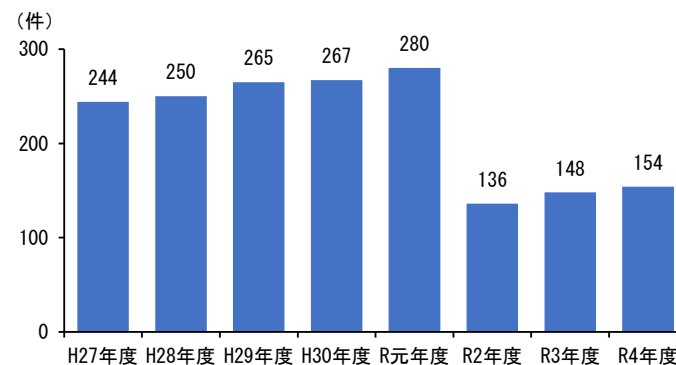


出典：市政世論調査

【アウトプット指標】

大学等と本市との連携協力事業数

令和元年度（2019年度）にかけて増加傾向、コロナ禍に
ボランティア関連事業の休止等に伴い減となりましたが、
徐々に件数が回復しました。



出典：学園都市文化課調査

基本方針1 地域連携支援

重点取組 大学等が行う地域の人材と資源を活用した課題解決型学習など、実践的な教育の支援に重点をおいて、大学等と地域との連携を推進します。

- ・PBL（課題解決型学習）授業参加やインターンシップ・ヒアリングの受入、協働プロジェクトの実施を通して、地域の課題解決に取り組む教育の支援及び専門人材の育成に取り組むとともに、地域課題の解決や学生に地域への関心を喚起するきっかけづくりを進めました。

景観絵本「八王子まちなか景観みらいものがたり」 の実現に向けた取組 【工学院大学・東京都立大学】

本市の中心市街地における景観づくりの目標像を描いた提案書である「八王子まちなか景観みらいものがたり」（令和4年（2022年）8月発行）の実現に向け、3つのプロジェクトに取り組みました。



ネクストアクションプロジェクト
（東京都立大学）



「そめる」プロジェクト
（東京都立大学）



数値空間からまちをリ・デザインするための調査研究
（工学院大学）

八王子市における図書館整備及び読書環境等の向上に 関する共同研究【中央大学】

市図書館と中央大学文学部社会情報学専攻チームが連携し、大学の専門的知見による調査・データ分析、検証作業等を通じて、図書館施策につなげていく取組として共同研究を平成29年（2017年）より実施しています。

令和3年度（2021年度）学生報告会の様子
写真提供／中央大学



災害対策医薬品供給車両（モバイルファーマシー）の運用に向けた協定締結 【東京薬科大学】

災害時に、避難所等へ薬剤を供給する機能を有する災害対策医薬品供給車両「モバイルファーマシー」を所有する東京薬科大学と八王子薬剤師会及び本市の3者で令和元年（2019年）に協定を締結し、車両の効果的な運用を図っています。

新型コロナウイルスワクチン接種会場の一部では、東京薬科大学の実務家教員（薬剤師）派遣とともにワクチン調製（希釈と分注）の作業場所として出動しました。



写真提供／東京薬科大学

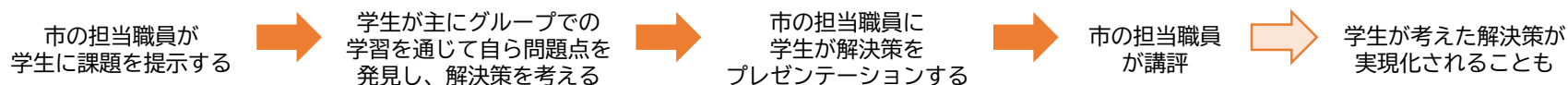
Project Based Learning

(「問題解決型学習」または「課題解決型学習」)

文部科学省が推進する「アクティブラーニング（学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称）」のひとつの教育方法です。正解のない問題に対して知識を組み合わせることで解決へと導く能力を養うことを目的としており、答えをどのように導き出したのかという過程が重視されます。

大学等は、自治体や民間企業と連携し、課題を実社会に設定する実践体験型のPBLに取り組んでいます。

PBL授業の主な流れ



八王子市 ～行政課題の提供～

- ・ 大学等の知により課題が解決される
- ・ 授業における取組を通して学生への啓発が進む
- ・ 学生が市の課題に対する関心や理解を深めることで、市への愛着醸成につながる
- ・ 授業参加を通じた職員のスキルアップ

大学等 ～学生の実践的な学び～

- ・ 実社会で学ぶことで、より実践的で役立つ力（主体性、推進力、状況に応じて判断して行動する力）を養う
- ・ 学生が自己肯定感を得る
- ・ 学生の地域社会や社会人、仕事に対する理解を深める
- ・ 学生のキャリア形成を促進する

過去に本市が参加したPBL授業の例

明星大学 経済学部「課題解決ワークショップ」

- 【過年度課題（テーマ）の一部】
- ・ 大学生の自転車マナー向上
 - ・ 若者向け相談窓口が学生に身近な存在となるには
 - ・ 図書館サービスの新たな展開



授業の様子 写真提供／明星大学

中央大学 ファカルティリンケージ・プログラム(FLP) 地域・公共マネジメントプログラム

- 【取組テーマの一部】
- ・ 性的マイノリティを含むすべての若者が暮らしやすい街づくり
 - ・ 外国人留学生の交流機会への参加促進



授業の様子 写真提供／中央大学

基本方針2 産学公連携支援

重点取組 理系・文系の幅広い分野の調査・研究と企業などを結びつける支援に重点をおいて、産学公連携を推進します。

- ・市主催イベントや八王子商工会議所所掌「出前研究室」において、大学コンソーシアム八王子が参加校を増やし、そこでのコーディネートなどを通して、産学公連携のネットワーク強化を図りました。
- ・「八王子市産学連携による研究・開発費等補助金」や「経営力強化補助金」、「八王子市新産業創出センター」の開設による新技術・新製品の開発支援を通して、産学公連携による共同研究・開発を支援しました。

地域に根差したビール作り【東京薬科大学】

高尾ビール（株）と東京薬科大学生命科学部食品科学研究室は、令和元年（2019年）から協力して「八王子」というキーワードのもとでコラボビールの研究開発に取り組んでいます。

八王子地域への研究成果の還元のみでなく、原料として使用する地域特産の農産物の生産者との新たな連携や、八王子市を訪問する観光客向けの土産品としての需要など、八王子地域全体の振興への貢献が大いに期待されています。



東京薬科大学植物園などで育った植物由来の酵母・乳酸菌を使用したビール
写真提供／東京薬科大学

出前研究室 【八王子商工会議所・大学コンソーシアム八王子事業】

市内中小企業に直接大学等の教員や学生が出向き、講義や技術相談などのサポートを行います。

産学連携及び地域活性化を進めることを目的として、平成30年度（2018年度）に八王子商工会議所と工学院大学が共同で開始しました。令和4年度（2022年度）からは大学コンソーシアム八王子とも連携しており、令和5年度（2023年度）現在では10校の大学等が参加しています。

八王子産酒米米粉を利用したバイオプラスチックの製品開発 【創価大学】

創価大学理工学部共生理工学科丸田ゼミナールでは、平成28年度（2016年度）から、NPO法人はちぶろと連携して八王子の吟醸酒「高尾の天狗」を製造する過程で発生する副産物の米粉を利用した加工製品の開発を開始しました。

スイーツや『食べられるスプーン』を開発、また八王子産米の米粉51%を含むバイオプラスチックのペレットの製造に至りました。

このペレットをもとに（株）セイホーと連携して開発した、市の木であるイチョウとモミジを象ったクリップは市のイベントでノベルティとしても採用されています。



写真提供／創価大学

この取組は、市の食品ロスやプラスチックごみの削減といったSDGsの推進に貢献することが期待されています。

基本方針3 学生活動支援

重点取組 学生が自ら企画・実施する課外活動と地域を結びつける支援に重点をおいて、学生活動を支援します。

- ・「市民企画事業補助金」や大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」で学生活動の振興を図りました。
- ・市や地域の活動団体によって、学生ボランティア活動の充実が図られました。
- ・市では学生が参加可能なボランティア活動について情報を集約し、大学等への提供及び活動実施のサポートを行いました。

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト【多摩大学】

多摩大学経営情報学部梅澤ゼミナール、市、市民生委員・児童委員、ボランティア、市高齢者あんしん相談センターが協働して平成28年（2016年）から「駅前サロン」（高齢者サロン）を運営しています。

学生がサロンの企画運営やチラシ、ポスターなど掲示物の作成を主に担当。外出自粛が続いたコロナ禍には、交流を継続するために、「オンライン駅前サロン」の企画や「駅前サロン通信」の発行に取り組みました。



学童保育所で活動する東京工科大学学生
写真提供／NPO法人明神学童育成の会



団地の活性化に取り組む学生
法政大学S I C「館ヶ丘プロジェクト」

基本方針4 学生の就職支援

重点取組 地域企業と連携した学生のキャリア形成の支援に重点をおいて、学生の就職を支援します。

- ・多摩地域合同の就職説明会や「はちおうじ就職ナビ」、「はちおうじ若者奨励金（令和4年度（2022年度）受付終了）」や「八王子市定住促進奨学金返還支援事業」の利用促進を通じて地域企業と学生のマッチングを図りました。
- ・大学コンソーシアム八王子「学生発表会」で市内企業の魅力を学生にPRする機会を設けました。

はちおうじ就職ナビ

平成24年（2012年）に都内初の自治体が運営する学生向け就職サイトとして運用を始めた新卒求人情報を中心として、市内の様々な企業の概要や求職情報を紹介するサイトです。就活生へのアドバイスや若手社員紹介なども掲載しています。

基本方針5 生活環境支援

重点取組 学生の生活環境の向上と、大学等に関わる都市基盤の整備に重点をおいて、学生と大学等を取巻く環境の整備を推進します。

- ・消費生活や健康に関してなど、学生の安心安全な生活環境を整えるための意識啓発をポスター、チラシの配布等を通して行いました。
- ・学生を含む市民の利便性の向上のため、シェアサイクルやバスロケーションシステム、ノンステップバス等の導入促進を通じた公共交通機関の充実を図りました。

BIGWEST「新入生のための生活便利帳」

昭和60年代から、新入生を中心とした学生に本市で送る学生生活について、情報を伝えることを目的とした情報紙を発行しています。
(制作・編集を八王子市学園都市推進会議(P.49参照)が担当)

市では、行政手続きやごみ出し、相談窓口などの生活で必要となる情報や文化施設や運動施設、ボランティアの募集情報などの生活をより充実させるための情報を集約して掲載しています。



シェアサイクルの導入

回遊性向上による地域や観光の活性化や公共交通の補完、環境負荷低減、健康増進等を目的として、民間事業者との共同によりシェアサイクルを導入しています。

大学等のキャンパス内にも設置することで、大学等に通学する学生や職員等の利便性向上を図っています。



多摩美術大学キャンパス内に設置されているポート

基本方針6 留学生支援

重点取組 地域社会への参加と交流する機会の創出に重点をおいて、留学生を支援します。

- ・「外国人留学生奨学金（令和2年度（2020年度）受付終了）」や「助っ人留学生制度」で、外国人留学生ならではの視点や語学力などの能力が活かされることで地域活性化が図られるように、外国人留学生と地域とのマッチングを進めました。
- ・地域のお祭りや小・中学校授業への外国人留学生の参加を支援しました。
- ・「在住外国人サポートデスク」や「留学生のための住居賃貸代行保証料補助金」、大学等担当者間の情報共有の充実を通して外国人留学生の生活を支援しました。
- ・日本語能力試験受験料の補助や、イベント実施による市内企業の紹介を通して、外国人留学生の進路支援を行いました。

基本方針7 生涯学習推進

重点取組 様々な市民のニーズに対応した学習機会の提供に重点をおいて、生涯学習を推進します。

- ・八王子学園都市大学（いちょう塾）は、最大で年間約300講座を開講し、約7,000人が受講するなど、広く大学等の学びを提供しました。
- ・「八王子リカレント教育支援アプリ（はちりカ）」で講座情報の周知活動を行い、社会人を含む、より多くの市民の学習機会の確保に努めました。
- ・八王子に関連した提供講座を充実させるとともに、大学等図書館に要望に応じて資料提供を行いました。
- ・大学等施設の開放状況の公開などを通して市民の生涯学習の推進を図りました。

八王子リカレント教育支援アプリ「はちりカ」

キャリア形成に役立つ講座情報のほか、人生を豊かにする多彩な講座の情報を掲載しています。

市主催講座の他にも、大学等の公開講座などの情報を調べることができます。



共通方針 学園都市ブランドの強化

重点取組 市民、学生、教職員それぞれが、八王子に大学等が立地する魅力を感じられるよう、「学生が育つまち」としての情報発信に重点をおき、学園都市ブランドの強化に取り組めます。

- ・「八王子市シティプロモーション基本方針」及び「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「20～30代の若年層と大学生」を重点ターゲットと位置づけて、本市への誇りと愛着の醸成につながるよう戦略の方向性を定め、情報発信などを図りました。
- ・「大学等や学生がまちづくりに関わっていると実感している市民の割合」（市政世論調査）は、平成27年度（2015年度）の18.6%から令和4年度（2022年度）には24.5%に上昇しました。



JR八王子駅前などで東京箱根間往復大学駅伝競走出場校応援ブースを設置

ヤマザキ動物看護大学の
新入生向けガイダンスで
市、大学コンソーシアム
八王子及び八王子学生委
員会が本市についてPR



高校生向けに
大学コンソーシアム八王子
に加盟する大学等を紹介するリーフレットを発行



大学等の「知」で育つ子どもたち

大学コンソーシアム八王子や各大学等では、学ぶことへの関心・意欲を高めることを目的として、各大学等の特色を活かした特別講座などのイベントを地域に向けて開講しており、本市では多くの子どもたちが大学等の「知」に触れながら育っています。

大学コンソーシアム八王子「夏休み子どもいちよう塾」

夏休みに大学コンソーシアム八王子加盟校の教員や学生が講師となる特別講座を、市内在住在学の小学4～6年生を対象として開講。毎年約500名の小学生が参加しています。



山野美容芸術短期大学
ヘアアレンジに挑戦してみよう



拓殖大学
ロボット・カーを作ろう



東京造形大学
シルクスクリン



日本文化大学
君も裁判員に挑戦しよう！



サレジオ工業高等専門学校
作って遊ぼう「イライラ棒」

多摩美術大学「あそびじゅつ」

小・中学生を対象とした公開講座です。

つくる、見る、考えるという「あそび」を通し、世界をひろげていくプログラムを展開しています。



写真提供／多摩美術大学

ヤマザキ動物看護大学「子ども体験塾」

市内在住の小学生を対象とするイベントです。

動物看護実習、グルーミング実習、野生動物学などのミニ授業を実施しています。



写真提供／ヤマザキ動物看護大学

東京工業高等専門学校 「学生によるプログラミング教育出前授業」

学生が小中学生向けのプログラミング学習教材の開発と教育手法の構築を行い、学生講師による出前授業を行っています。



写真提供／東京工業高等専門学校

東京純心大学「純心こどもの国のクリスマス」

実行委員会の学生達が学びの一環として企画するクリスマスイベントで、毎年200名を超える近隣の子もたちが参加しています。



写真提供／東京純心大学

桜美林大学「スポーツフェスタ」

特別強化クラブに所属する学生が指導役となり、子どもたちに様々なスポーツを体験するきっかけづくりとして実施されているイベントです。



写真提供／桜美林大学

デジタルハリウッド大学「ドローン教室」

市とのドローンの活用に向けた人材育成に関する協定の締結に伴い、小学校でドローンを操縦する体験会を行っています。



写真提供／デジタルハリウッド大学

3

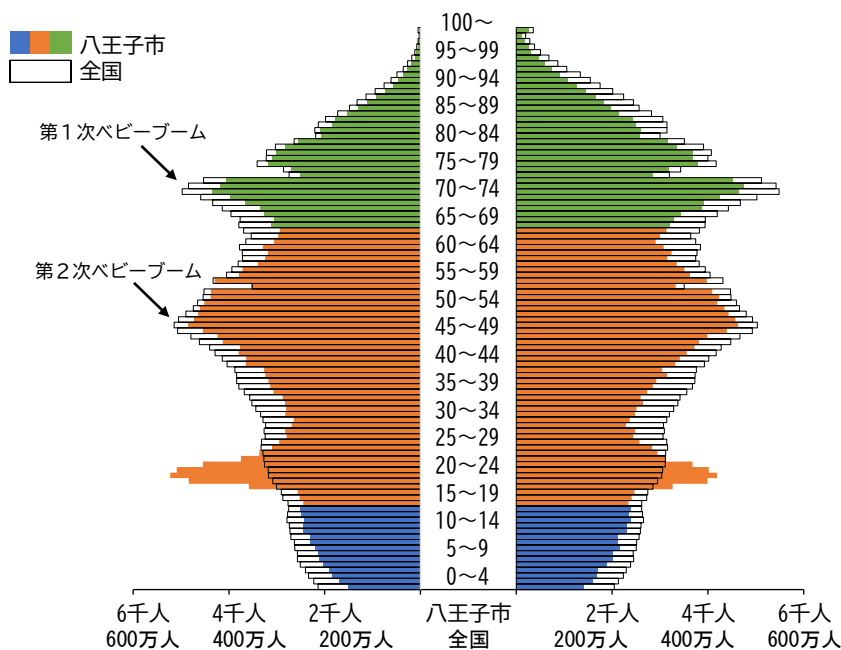
八王子市の現状

「学園都市八王子」における人口動態の特徴として、大学等の入学・卒業年代の転入・転出がともに著しく多い点が挙げられます。この傾向は前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」策定時から大きく変化していません。

(1) 年齢別人口構成

第1次・第2次のベビーブーム世代の人口集中に加え、本市の学園都市という特徴を表して、10代後半から20代前半世代にも人口集中が存在しています。

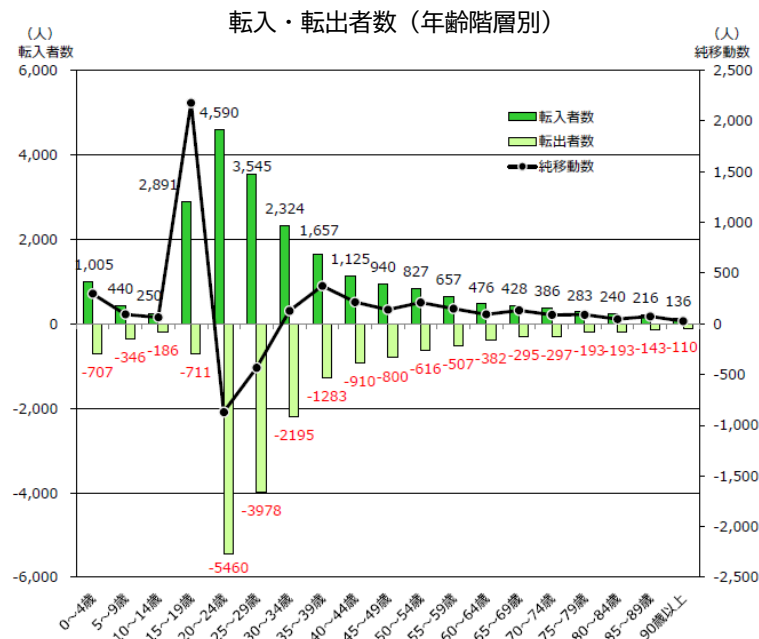
年齢別人口構成（八王子市と全国の比較）



出典：令和2年（2022年）国勢調査をもとに作成

(2) 転入・転出者数

10代後半に大幅な転入超過となっています。一方、20～24歳と25～29歳は転出超過となっています。



出典：八王子市人口ビジョン

4

大学等の現状

(1) 大学等(八王子(多摩等)キャンパス)学生数の推移

令和5年度(2023年度)現在、市内には21校の大学・短期大学・高等専門学校が立地し、約9万人の学生が学んでいます。

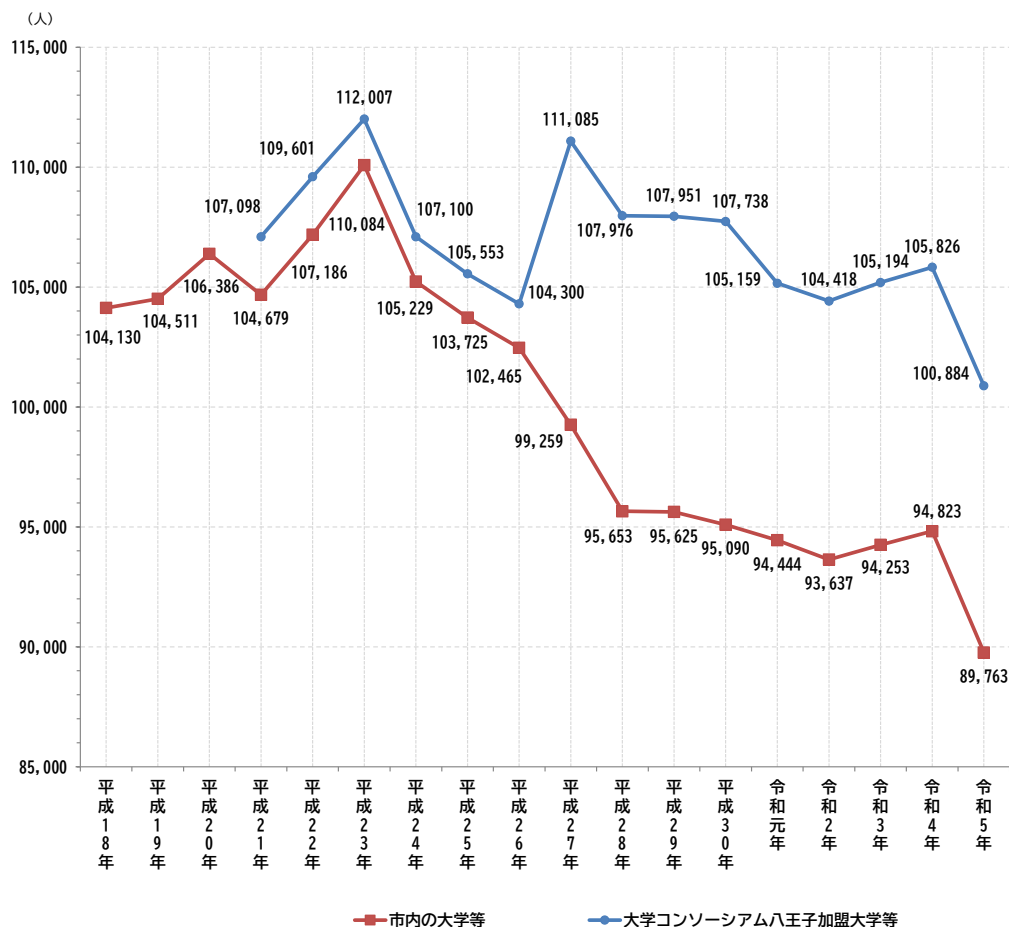
また、本市が加盟、その活動を支援する、大学コンソーシアム八王子に加盟する25校(上記21校を含む)では、約10万人の学生が学んでいます。

八王子(多摩等)キャンパスにおける学生数は減少傾向にあり、今後の18歳人口の減少も鑑みると大幅な増加は見込まれないことが予想されます。

(2) キャンパス整備の流れ

本市への大学等立地は昭和30-60年代を中心として進められ「学園都市八王子」が形成されてから40年以上が経過しています。

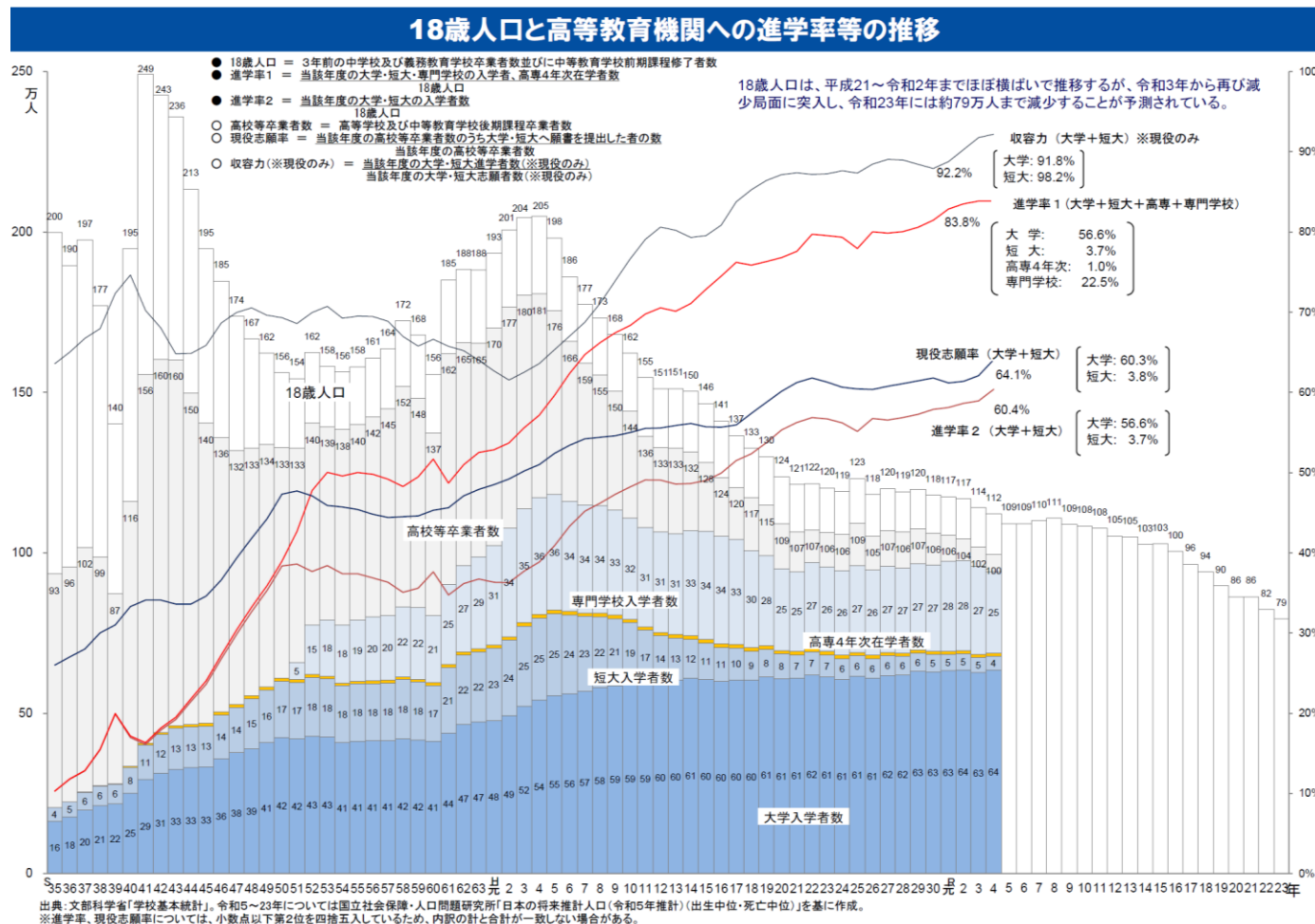
そのため、市内大学等では、老朽化した施設の建て替え等をきっかけとしたキャンパスの再構築が進んでいます。



出典：大学コンソーシアム八王子調査

2050年の大学進学者数

急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、2050年の大学進学者数は全国で約48万人と推計され、外国人留学生比率が現状のまま（3.07%）であった場合でも、現在の大学入学定員の規模が維持された場合には、定員充足率が約80%になると推計されています。

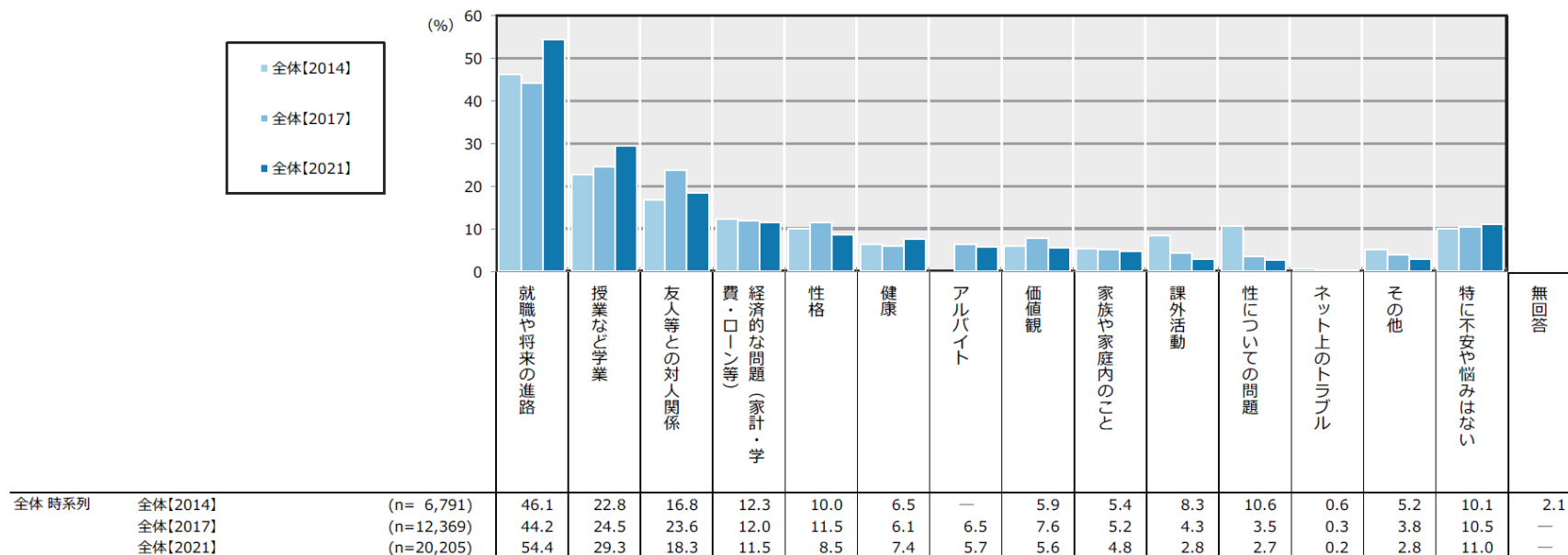


出典：中央教育審議会大学分科会（第174回）会議資料

現在の不安や悩みとして、半数以上の学生が「就職や将来の進路」を挙げています。また、就職内定率の推移をみると内定取得時期の早期化が進んでいることが分かります。

(1) 現在の不安や悩み

いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。(2つまで)



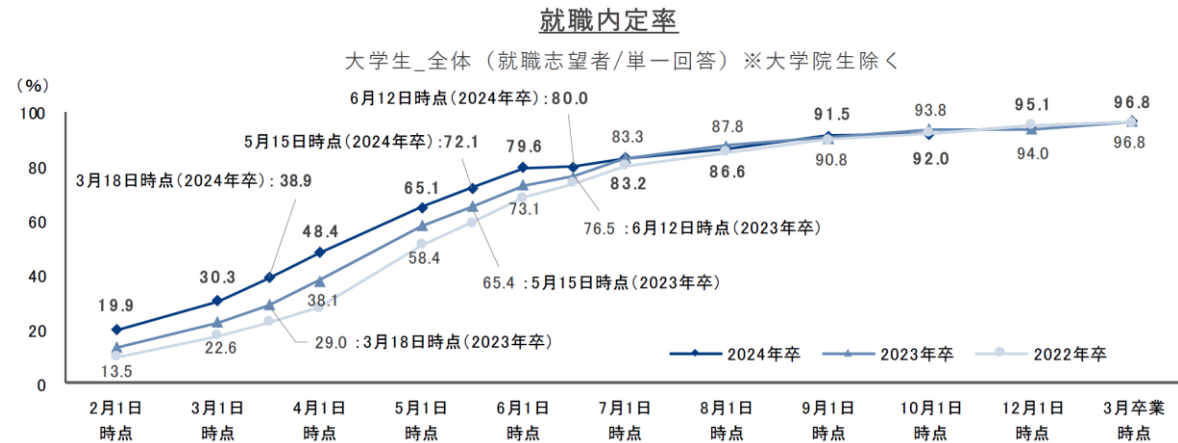
※「全体【2021】」で降順ソート

※「経済的な問題(家計・学費・ローン等)」は2021年文言変更、2017年までは「経済問題(家計・学費・ローン等)」

※「アルバイト」は2017年追加/「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

出典：私立大学学生生活白書2022

(2) 就職内定率の推移



出典：(株)リクルート 就職プロセス調査（2024年卒）「2024年3月度（卒業時点）内定状況」

大学等における学び（正課教育）への満足度は上昇傾向にあり、大学等の「学修者本位の教育の実現」に向けた取組の推進やコロナ禍における授業のオンライン化による学習形態の変化が背景にあると考えられます。

(3) 正課教育満足度

【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（1つだけ）

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	89.2	0.9	10.0	
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	56.6	5.4	38.0	
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	66.2	3.4	30.4	
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	25.4	14.4	60.2	

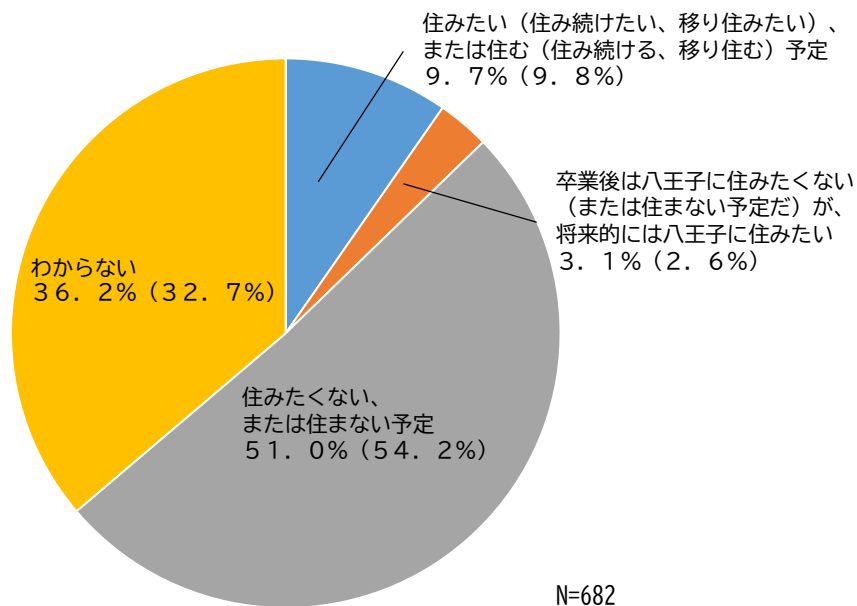
出典：私立大学学生生活白書2022

(4) 本市への定住意向 (第2期はちおうじ学園都市ビジョンアンケート調査(P. 57参照))

卒業後の八王子市への定住意向は前回調査(八王子市学生意識・希望調査(平成27年度(2015年度)実施))と類似の結果となりました。

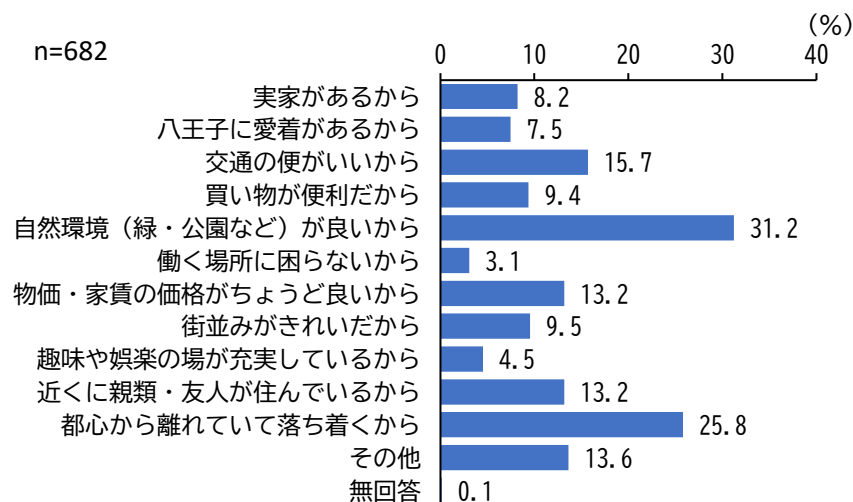
八王子市内に住みたい理由の内訳をみると、自然や交通などの環境面に関する点が多く挙げられています。なお、卒業後に八王子市内に「住みたい(住み続けたい、移り住みたい)、または住む(住み続ける、移り住む)予定」と回答した学生からは「趣味や娯楽の場が充実しているから」が最も多く、次いで「交通の便がいいから」が回答として挙げられました。

ア 卒業後に八王子市内に住みたいと思いますか、
または住む予定ですか。【1つ選択】※()内は前回調査結果



イ 八王子市内に住みたい理由【3つまで選択】

「自然環境(緑・公園など)が良いから」が31.2%で最も多く、次いで「都心から離れていて落ち着くから」が25.8%、「交通の便がいいから」が15.7%となっています。

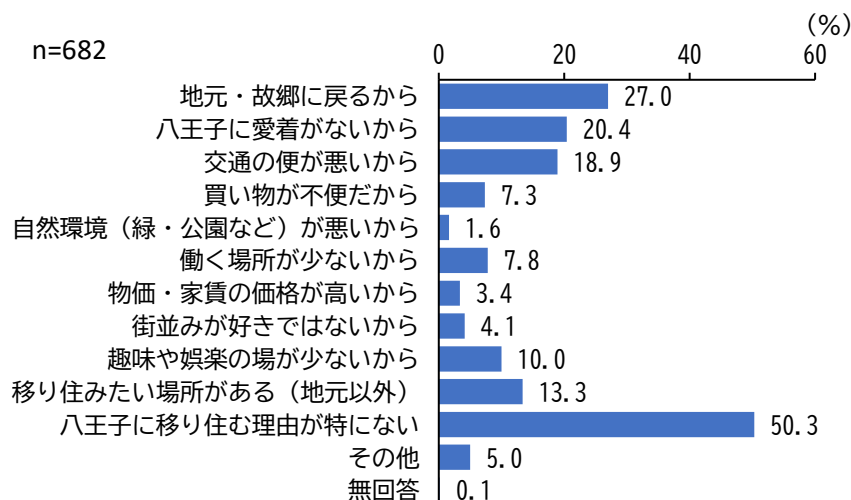


八王子市内に住みたくない理由の内訳をみると「八王子に移り住む理由が特にない」「地元・故郷に戻るから」「八王子に愛着がないから」の割合が多く、特定の理由を持たない学生が多くいることが分かります。なお、卒業後に八王子市内に「住みたくない、または住まない予定」と回答した学生からも同項目の回答が多くありました。

背景には、新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンパスの閉鎖や授業がオンライン化するなど、学生が八王子の地に来て学ぶ機会が少なくなったことにより、地域の活動などに触れ、愛着を持つきっかけが減少したことが推察されます。

ウ 八王子市内に住みたくない理由【3つまで選択】

「八王子に移り住む理由が特にない」が50.3%で最も多く、次いで「地元・故郷に戻るから」が27.0%、「八王子に愛着がないから」が20.4%となっています。

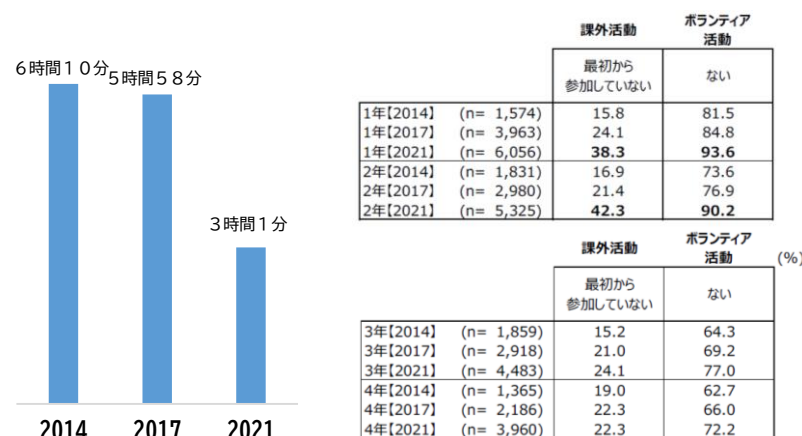


コラム

キャンパス滞在時間とボランティア活動

学生のキャンパス滞在時間は平成29年度（2017年度）調査と比較すると半減、またコロナ禍での入学生を主としてボランティア活動に参加していない学生数が大きく増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な経験の場が失われたことが推察されます。

キャンパス滞在時間 (学年別傾向) 課外活動参加状況 (全体/単一回答)



出典：私立大学学生生活白書2022